

さわやかトカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

南北160km 「心をつなぎ気概に満ちた」十島の教育

6月・・・「若い目」掲載

十島村教育長 有村 孝一

南日本新聞に「ひろば」「若い目」という読者投稿のコーナーがあります。十島村では、この2年間で15人の児童生徒と2人の先生の投稿が掲載されました。「ひろば」の中で、小・中学生及び高校生の投稿を「若い目」としてけいさいしているのはご存知だと思います。そこで、南日本新聞社の担当部署にいろいろと尋ねてみました。

投稿欄は新聞発行と同じくらいに始まったようですが、「ひろば」という名称になったのは戦後になってからだそうです。以来多くの方が投稿してきていると言うことです。その数は、月に約1000件というから驚きです。「若い目」については、その半分の500件くらいということでした。

近年の傾向として、常連校からの投稿ばかりでなく、いろいろな学校からの投稿が増えており、学校ぐるみの取組がなされているということでした。現在、実施されているNIE（学校で新聞を教材として活用すること）効果も大きいのではということでした。そして、子どもたちにも様々な変容が見られているようです。掲載されることにより、子ども自身にやる気が出てきて、大変積極的になったということもあるようです。また、内容も家族との関わりをテーマにしたものが数多く見られるということでした。親や祖父母との関わりの中で、自分が感じたことなどを素直に書いたものがかなりの数あるということでした。大人の読者に大変好評のようです。中には、新聞社を経由して児童生徒へ励ましの手紙を下さる方もいらっしゃるということです。そのほとんどの方が言われるには、「心が洗われるような気がする。」ということだそうです。

十島村の子どもたちに必要とされる課題の一つに、伝え合う力、コミュニケーション能力の育成というのがあります。各学校の先生方も、課題の一つとしてあげています。そんな中で、自分の考えをしっかりと持ち、それを対外的に発表する（伝える）ということ、大変意義のあることだと思います。投稿に当たっては、先生方がきちんと指導していただいております。その育成にもつながっているものと考えています。



また、このことにより、十島村の広報にも役立っていると思います。これからは、自分のために、村のために考えたことを文章にして、発表していただくことを期待しています。この原稿を書いていると、今朝の新聞にまた、十島村の子どもの作品が掲載されました。がんばれ トカラっ子の皆さん。

シリーズ 新聞に投稿 「中之島で大発見」 中之島中学校 1年 宮村 怜志

鹿児島大学の先生に、中之島で宮水流遺跡が発見された時の話を聞いた。鹿児島大学など3つの大学の調査によって、今回新しく発見された遺跡だった。弥生式土器が発見されたそうだ。



十島村では、弥生時代と古墳時代の間に人が生活していたのかははっきりわかっていなかった。しかし、それが、今回の発見で空白の時間が埋まったということだった。発見された土器も触らせてもらった。なかなか触れない貴重な物だと思うと少し緊張した。思ったよりしっかりしていて硬く、こんなに丈夫な土器を作るその時代の技術に驚いた。小学校6年生の歴史の学習で、中之島にも縄文時代のタチバナ遺跡が見つかっていることは学習していたが、それほど興味や印象も残っていなかった。

しかし、今回の話を聞いて、中之島は自然豊かな島だけでなく、歴史も十分に感じられる島だと実感した。

赤十字「100文字作文」コンクール入選 「ちよつとの勇気で」 悪石島小学校 4年 森木洋那

「こんにちは。」この一言がなかなか出てきません。少しだけ勇気を出して、相手の目を見て、伝わるように元気な声で、できるようになりたいです。赤ちゃんからお年よりまでとどくといいな。



水の事故 気をつけよう!!

楽しい夏がまもなくやって来ます。今年も、楽しい夏にするために、水の事故がないよう、子どもたちは、次の点に気をつけましょう。

- 一人で泳ぎに行かない。
 - 遊泳禁止区域で泳がない。
 - 準備運動をしてから、ゆっくりと水に浸かる。
 - 海では、沖に向かって泳がない。
 - 途中で休憩時間をつくる。
- また、保護者や周りの大人たちは、次のことに気をつけましょう。
- 一人で泳ぎに行かせない。
 - 禁止区域で泳がせない。
 - 禁止区域の表示を見やすくする。
 - 危険箇所には、柵など設ける。
 - 校区で、危険箇所点検をする。

【平成28年度児童生徒等水難事故防止運動強調期間】

*今年のスローガン

「水に親しみながら3M運動
みんなで めざそう 水の事故ゼロ」

*期間

準備期間 7月 1日～7月20日
実施期間 7月21日～8月31日

灯

シリーズ——島で暮らす
口之島に来て
口之島小学校4年 村上詩織

この口之島に留学して、新しい友だちもでき、学習や委員会活動など、東京ではできなかったことに楽しく取り組んでいます。

学校では「エイサー」、金管バンド、空手など多くの活動をしていて、毎日大変ですが、最初はぜんぜんできなかったことも、少しずつみんなに追いつけるように学級は2人しかいませんが、担任の先生も同級生もいつも私を笑わせてくれます。2人で学習も毎日楽しくがんばりたいです。島民の方々もとても優しく、親切にしてください。

口之島は自然がゆたかで、野生牛もふつうに道路を歩いているので、初めて島にきたときは、とてもおどろきました。



わたしは、自然がたくさんあり、楽しく過ごせるこの島が大好きです。留学という短い間だけど、たくさん思い出を作りたいです。

十島村の小・中学校からのメッセージ 小宝島小学校 教諭 梅木裕二

友だちや家族、保護者や担任した子どもたち、また、同僚の先生方や上司の先生方、たくさんの方々に見送られ、フェリーとしまで期待に胸膨らませながら小宝島に赴任して1年と数か月が過ぎました。島に着くと、まず何とも表現できない色で透き通った海の美しさと隆起サンゴが作り出す自然の雄大さに心奪われ、感動したことを今でも覚えています。

小宝島での1年間を振り返ると、通船作業や地域行事、諸行事などを通して、島民の方々と親睦を深めることができ、今では釣りを教えていただいたり、バレーと一緒に盛り上がりたりと、とても充実した生活を送っています。

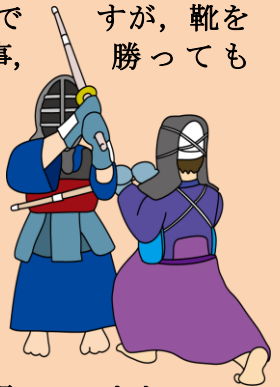
仕事面では、どの勤務地もそうですが、教科指導の時に、子どもたちが「わかった。」と一瞬目を輝かせた時には、たまらないものがあります。複式授業の難しさは言うまでもありませんが、目を輝かせる瞬間をつくるためのポイントを絞った指導の大切さを、日々感じています。

また、小中併設校として、中学校との指導内容の関連性や中学校に上がった子どもたちの成長や様子を知ることができることは、大きいメリットになります。それは、中学校を卒業すると、親元を離れる環境だからこそ、小学校段階での指導内容の大切さを再認識させられるからです。

毎週土曜日、剣道教室を開き、子どもたちを指導しています。子どもたちも楽しみにしてくれています。経験者として、おもしろさもありますが、靴を揃えて体育館に入る、挨拶や返事、勝っても負けても礼や返礼をするといった礼儀や節度の大切さも、将来に生きる力となるように指導していきたいと思っています。

たくさんの島民の方々から、ご理解やご協力をいただき、支えてもらった1年のように思います。自分に還元できることをもう一度見つめ直し、2年目も頑張っていきたい。

「教職員仲間であるあなた」への
私からのメッセージ



小学校1年生の娘と年長の息子が、今年のゴールデンウィークに遊びに来ました。天候不良でフェリーの出航延期も経験しましたが、今でも電話で「小宝島に行きたい。」と言っています。それだけ魅力溢れる十島です。